

植物の高度利用

わが国土は狭い。経済成長によって引き上げられた国民の生活レベルを維持するには、限られた面積の高度利用が必要である。農家所得はこの10年間で3.8倍、農業労働の生産性は2倍になっている。斯くあらしめたものは、生産物の価格上昇もさることながら、農業技術の進歩にはかならない。機械化により能率を上げ、施設により換金性を高め、開発された技術の無理を埋めたり、省力化の部分には農薬が寄与した。

しかし、経済面の評価だけで済まない難かしさがある。NHKの特別番組「食糧輸入ゼロの日」の主張は、農業と人類の将来を基本から考えさせるものがあつた。木材だって、自給率は「35%を割っている。事は単なる自給率だけの問題ではなく、治山・水源など公益機能としての森林も考えなければならない。一方、自然保護といえ、人為をすべて否定し、放置せよという極端な意見が台頭する。

有限の地球上では、今後ますます植物の高度利用を考えることである。新しく活用できる植物はまだまだ見出せる筈だし、育種や耕種法の検討、化学物質による多面的な調節など、人知の及ぶところ可能性は開けるものと信ずる。現在、重要な食糧となっている馬鈴薯など、アンデスの高山植物で、食用としての利用は18世紀以来のことであるという。30億年もかゝって進化と繁栄を続けてきた植物の中には、まだ多くの可能性が秘められているに違いない。ただし、環境問題で多くを学んだ現代人として、何事にも広い視野から自然界のバランスを考えた、謙虚な吟味が必要なことは当然である。

〔財団法人日本植物調節剤研究協会理事
三井株式会社常務取締役・農業事業部長 上井忠太郎〕

目 次

(第12巻第8号)

除草剤の少量散布機	2
＜農業機械化研究所 武長 孝＞	
1. はじめに	2
2. 除草剤の少量散布	2
3. 液剤の少量散布機	2
4. 粒剤の少量散布機	2
5. 水田除草剤の少量散布機	3
6. 畑作除草液剤の少量散布機	3
7. 畑作除草粒剤と散布量	4
8. 除草剤散布機による少量散布の今後	4
芝地におけるカタバミの防除	5
＜程ヶ谷カントリー倶楽部 角田三郎＞	
1. カタバミの種類と生態	5
2. 芝草内のカタバミ	6
3. 芝草内のカタバミの防除	6
ハマスゲの生態と防除法の現状	7
＜長崎県総合農林試験場 鶴内孝之＞	
1. ハマスゲの生態	8
2. ハマスゲの防除法	10
昭和52年度冬作(麦類・いぐさ・水稻刈跡)関係除草剤、生育調節剤試験成績概要	13
昭和51年度牧野草地関係除草剤・生育調節剤試験成績概要および昭和51～52年度同概要の一部判定の訂正について	20
外国文献抄録	22
新除草・調節剤	25